

平成17年10月27日

水産庁
独立行政法人 水産総合研究センター
西海区水産研究所

平成17年度第1回東シナ海長期漁海況予報

－別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
西海区水産研究所がとりまとめた結果－

今後の見通し(2005年10月～2006年3月)

海況

- (1)九州南方海域の黒潮は、「屋久島南付近での変動」で経過する。
- (2)東シナ海から九州・日本海西部沿岸域にかけての表層水温は、「平年並み～やや高め」で経過する。

漁況(来遊量予測)

- (1)マアジ:前年を下回る。
- (2)マサバ:前年並み。
- (3)ゴマサバ:前年を上回る。
- (4)マイワシ:極めて少ない。
- (5)ウルメイワシ:前年・平年を下回る。
- (6)カタクチイワシ:前年・平年並み。

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び西海区水産研究所のホームページ(<http://www.snf.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。

水産庁 増殖推進部 漁場資源課沿岸資源班 担当:青木、笠原、田中(千)、佐藤

住所:〒100-8950 東京都千代田区霞が関 1-2-1

電話:03-3502-8111(内線 7375、7376) 直通電話:03-3501-5098

ファックス:03-3592-0759

電子メール:yuusuke_satoh@nm.maff.go.jp

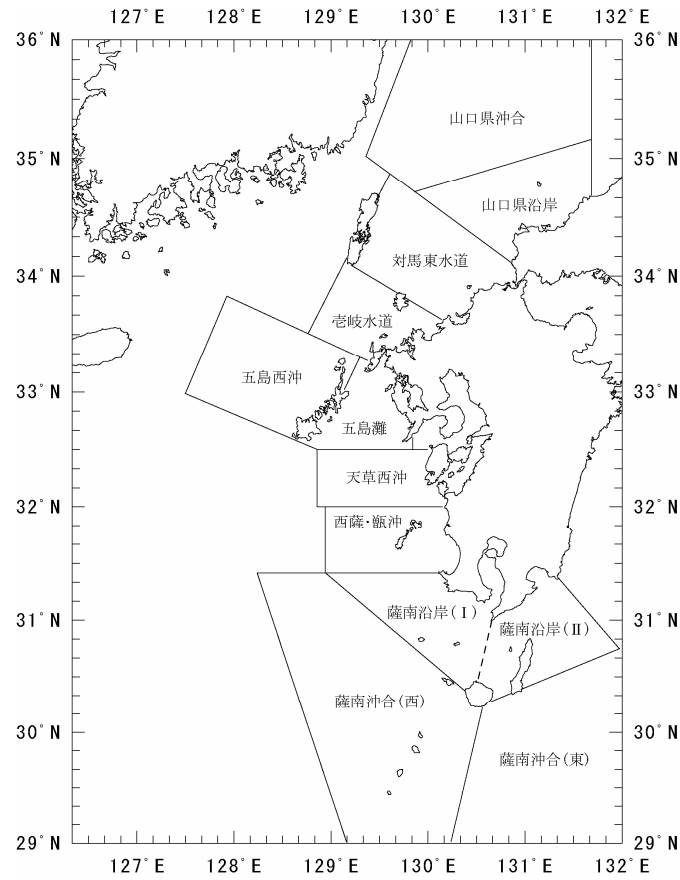
独立行政法人 水産総合研究センター 西海区水産研究所 企画連絡室

住所:〒851-2213 長崎市多以良町 1551-8

電話:095-860-1600 ファックス:095-850-7767

電子メール:snf-kiren@ml.affrc.go.jp

予報対象海域



参 画 機 関

山口県水産研究センター	沖縄県水産試験場
福岡県水産海洋技術センター	社団法人 漁業情報サービスセンター
佐賀県玄海水産振興センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
長崎県総合水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 西海区水産研究所
熊本県水産研究センター	
鹿児島県水産技術開発センター	

平成17年度第1回東シナ海海況予報

1. 今後の見通し(2005年10月～2006年3月)

(1)海流

薩南海域における黒潮北縁域の位置は、11月には「接岸傾向」となるが、全般的には「屋久島南付近での変動」で経過する。

(2)表層水温

山口県沿岸・沖合、対馬東水道、壱岐水道、五島西沖、五島灘、天草西沖、西薩・甌沖、薩南沿岸、黒潮域、沖縄島周辺海域では、前半、後半ともに「平年並み～やや高め」、大陸棚上では、前半は「平年並み～やや高め」、後半は「平年並み」で経過する。

2. 経過(2005年4月～2005年9月)

1. 大陸棚上

(1)海面水温

北部:4・5月「やや低め」、6～9月「やや高め」。

南部:4月「やや低め」、5～9月「平年並み」。

2. 黒潮流域

(1)海流

沖縄北西方の黒潮の流路は、春季、夏季ともに「平年並み」。流量は、春季は「少なめ」、夏季は「かなり多め」で経過。

薩南海域における黒潮北縁域は、5月と8月には「接岸傾向」となったが、他の月は概ね「屋久島南付近での変動」で経過。

(2)海面水温

4月「平年並み」、5月「やや高め」、6～9月「平年並み」。

3. 対馬暖流域・沿岸域

(1)表層水温

山口県沖合:5月「やや高め」、6月「平年並み」、7月「やや高め」、8・9月「平年並み」。

山口県沿岸:4～6月「やや高め」、7月「かなり高め」、8月「平年並み」、9月「やや高め」。

対馬東水道:4月「やや高め」、5・6月「平年並み」、7月「かなり高め」、8・9月「平年並み」。

壱岐水道:4月「平年並み」、6月「やや低め」、8月「やや高め」。

五島西沖:4月「平年並み」、6月「やや低め」。

五島灘:4月「やや低め」、6月「平年並み」。

天草西沖:4・5月「平年並み」、6月「かなり高め」、8月「平年並み」。

西薩・甌沖、薩南沿岸:4・5・8月「平年並み」。

薩南沖合:4・5月「平年並み」、8月「やや高め」。

沖縄島南東:6月「平年並み」。

(2) 表層塩分

山口県沖合:5月「**平年並み**」、6・7月「**やや高め**」、8・9月「**平年並み**」。

山口県沿岸:4・5月「**平年並み**」、6月「**かなり高め**」、7・8月「**かなり低め**」、9月「**平年並み**」。

対馬東水道:4月「**やや低め**」、5・6月「**平年並み**」、7月「**やや低め**」、8月「**かなり低め**」、9月「**やや高め**」。

壱岐水道:4・6月「**平年並み**」、8月「**やや低め**」。

五島西沖、五島灘:4・6月「**平年並み**」。

天草西沖、西薩・甌沖、薩南沿岸:4月「**平年並み**」、5月「**やや低め**」、8月「**平年並み**」。

薩南沖合:4月「**やや低め**」、5月「**かなり低め**」、8月「**平年並み**」。

3. 現況(2005年10月上旬)

(1) 大陸棚上

海面水温は北部・南部とも「**はなはだ高め**」。

(2) 黒潮流域

薩南海域の黒潮北縁域は「**離岸**」。海面水温は「**かなり高め**」。

(3) 対馬暖流域

海面水温は「**はなはだ高め**」。

(註) 引用符「」で囲んで表した**平年比較**の水温・塩分の**高低の程度**は以下のとおり。

「**はなはだ**」 : 約22年に1回程度の出現確率

「**かなり**」 : 約7年に1回程度の出現確率

「**やや**」 : 約3年に1回程度の出現確率

「**平年並み**」 : 約2年に1回程度の出現確率

東シナ海～日本海西南域あじ・さば・いわし長期漁況予報

今後の見通し(2005年11月～2006年3月)

対象海域:東シナ海～日本海西南海域

対象漁業:まき網、定置網、その他

対象魚群:0歳魚(2005年級群(2005年生まれ))、1歳魚(2004年級群)、2歳魚(2003年級群)。魚の大きさは、あじ・さばは尾叉長、いわしは被鱗体長で表示。

1. マアジ

(1)来遊量:前年を下回る。

(2)漁期・漁場:沖合域の漁況は前年を下回り、沿岸域の漁況は前年・平年を下回る。

(3)魚体:10～19cmの0歳魚(豆・ゼンゴ銘柄)及び19～24cmの1歳魚(小銘柄)が主に、24cm以上の2歳魚以上(中・大銘柄)も漁獲される。

2. マサバ

(1)来遊量:前年並み。

(2)漁期・漁場:沖合域の漁況は前年並み、沿岸域の漁況は前年・平年を下回る。

(3)魚体:25～28cmの0歳魚(豆銘柄)及び29～32cmの1歳魚(小銘柄)が主に漁獲される。

3. ゴマサバ

(1)来遊量:前年を上回る。

(2)漁期・漁場:沖合域の漁況は前年を上回り、沿岸域の漁況は前年・平年を上回る。

(3)魚体:25～30cmの0歳魚(豆銘柄)及び29～33cmの1歳魚(小銘柄)が主に漁獲される。1月以降には、沿岸域で33～40cmの2歳魚以上(中・大銘柄)が主に漁獲される。

4. マイワシ

(1)来遊量:極めて少ない。

(2)漁期・漁場:まとまった漁場は形成されず、散発的に沿岸域で漁獲される。

(3)魚体:15～20cmの0～2歳魚(中羽・大羽銘柄)が主に漁獲される。

5. ウルメイワシ

(1)来遊量:前年・平年を下回る。

(2)漁期・漁場:漁期前半を主体に、長崎県以南の沿岸域が漁場となる。

(3)魚体:15～25cmの0～1歳魚(中羽・大羽銘柄)が主に漁獲される。

6. カタクチイワシ

(1)来遊量:前年・平年並み。

(2)漁期・漁場:漁期は後半が主体で、漁場は沿岸域が中心となる。

(3)魚体:10cm程度の0歳魚(大羽銘柄)が主に、5cm程度の0歳魚(小羽銘柄)も漁獲される。

注:「前年」は2004年11月～2005年3月。「平年」は過去5年の平均値。「沖合域」は大中小型まき網が操業する対馬周辺から東シナ海。

漁況の経過(2005年4月～8月)および見通しについての説明

1. 資源状態

(1) マアジ対馬暖流系群

東シナ海・日本海に生息するマアジの資源量は、1970年代後半に低水準にあったが、1980～1990年代前半に増加し、1993～1998年には高水準を維持した。1998～2000年の加入量減少のため資源は減少傾向を示したが、2001～2004年の加入量は1994～1997年の水準に回復し、2004年の資源量も増加した。東シナ海・日本海(青森県～鹿児島県)での我が国のマアジ漁獲量は、1973～1976年に9～14万トンであったがその後減少し、1980年に4万トンまで落ち込んだ。1980～1990年代は増加傾向を示し、1993～1998年には約20万トンを維持したが、1999～2002年は13～16万トンに減少した。2003年から、漁獲量は再び増加し、2003年は18万トン、2004年には19万トンの漁獲量であった。

(2) マサバ対馬暖流系群

東シナ海・黄海・日本海に生息するマサバの資源量は、1970・80年代には比較的安定していたが、1992～1996年に増加傾向を示した後、1997年以降減少し、1999～2004年は低い水準にある。東シナ海・黄海・日本海での我が国のマサバ漁獲量は、1970年代後半には27～30万トンであったが、その後減少し、1990～1992年には13～15万トンと大きく落ち込んだ。1993年以降、漁獲量は増加傾向を示し、1996年には41万トンに達したが、1997年は21万トンに大きく減少し、2003年は83千トン、2004年は85千トンと低い水準にある。

(3) ゴマサバ東シナ海系群

東シナ海から日本海西部に分布するゴマサバの資源量は、1992～2004年に比較的安定して同程度の水準を保っている。東シナ海・日本海における我が国のゴマサバ漁獲量は、年変動はあるものの、1980年代以降およそ5万トン前後で推移している。1999年に近年で最高の88千トンが漁獲された後、やや低い33～63千トンの漁獲が続いており、2004年は33千トンであった。

(4) マイワシ対馬暖流系群

東シナ海・日本海においてマイワシは、1980年代後半から1990年代前半にかけて多く漁獲されたが、その後急激に減少した。2001～2003年に漁獲量は1千トン程度で推移している。1999年には、0歳魚がやや多く漁獲され、資源状態は低位ながらも一時上向いたが、その後は減少し近年は極めて低位にある。海域によっては水揚げ量が前年を上回ることもあるが、全体として資源は低水準である。

(5) ウルメイワシ対馬暖流系群

1990年代以降では、2000年まで資源は漸減傾向にあったが、2001～2002年の加入量が以前よりも多かったため、一時的に資源は上向いた。2003～2004年の加入量は2001～2002年の加入量よりも少ないとみられる。2005年級群は各県地先の漁獲状況および各種調査結果からみると、2004年級群よりも少ない。

(6) カタクチイワシ対馬暖流系群

1990年代以降では、1995～1996年および1998～2000年にかけて資源は高水準で推移した。2001年の夏季

までは沿岸域を中心に好漁が続いていたものの、2001年秋季から2003年春季までは加入量が少ない状態が続いていた。2003年秋季以降はやや好漁となっている海域が増えている。2005年1月以降に大羽イワシを主体に漁況が上向き、2005年春季発生群の加入はやや良かった。

2. 漁況の経過

2005年4～8月の大中型まき網漁業の漁場は、対馬沖、五島西沖、東シナ海中部および東シナ海南部が中心であった。この間の、大中型まき網漁船の九州主要港への水揚量は、全魚種合計6万トンで前年(2004年4～8月)の3万8千トンを上回った。マアジは2万8千トンと前年(2万4千トン)並み、さば類は2万4千トンで前年(7千トン)を上回った。

山口県～鹿児島県地先における沿岸漁業の漁況は、表1のような経過であった。マアジの漁獲量は、海域により差があるが、全体的には前年・平年を下回った。漁獲の主体は、15～20cmの1歳魚であった。マサバは、海域によって差があるが、概ね前年並みであった。漁獲の主体は30cm以下の0～1歳魚であった。ゴマサバは前年・平年を大きく上回った。漁獲の主体は32cm以下の0～1歳魚であった。マイワシは山口県と鹿児島県沿岸で前年を上回ったが、その他では前年と同様に極めて低調に推移した。全体としては前年・平年を下回った。漁獲の主体は15～21cmの1～2歳魚であった。ウルメイワシは、ほぼ全域で前年を下回り不漁であった。4～5月は体長16～24cmの1～2歳魚主体で、6月以降に6～17cmの0歳魚が主体となった。カタクチイワシは山口県で前年をやや上回り、全体としては前年・平年並みであった。4～5月は10～14cmの0～1歳魚が主体で、6月以降は4～10cmの0歳魚が主体となった。

3. 今後の見通しの説明

(1) マアジ

例年、11～3月期には0歳魚(豆・ゼンゴ銘柄)が漁獲の主体で、1歳魚(小銘柄)、2歳魚以上(中・大銘柄)も漁獲される。2004年級群は2003年級群より豊度がやや低いと考えられる。2005年級群については、2005年2～4月に東シナ海～九州沿岸域で行った仔稚魚分布調査及び6月に東シナ海～山陰沿岸域で行った幼稚魚分布調査の結果から、2004年級群を上回る豊度と考えられた。しかし、8月に行なわれた計量魚群探知機を用いた分布調査での現存量推定値は前年より低く、沿岸域における漁況も前年を下回った海域が多い。これらから、0歳魚(2005年級群)は前年(の0歳魚)より少なく、1歳魚(2004年級群)は前年より少なく、2歳魚(2003年級群)は前年より多く、全体の来遊量は前年を下回ると見積られる。

沖合域の漁況の指標となる大中型まき網のCPUE(1日1隻当り漁獲量)は、最近3年間高い値を示しており、沿岸域の漁況の指標となる代表的な沿岸漁業の漁獲量(参考図参照)は、近年比較的高い値で推移している。来遊量が前年を下回ることを反映して沖合域の漁況は前年を下回り、沿岸域の漁況は前年・平年を下回ると考えられる。

(2) マサバ

例年、11～3月期には0歳魚(豆銘柄)と1歳魚(小銘柄)が漁獲の主体となる。2004年級群の豊度は高い。2005年級群の評価は難しいが、漁況の経過から、2004年級群よりやや低い豊度とみられる。これらから、0歳魚(2005年級群)は前年を下回り、1歳魚(2004年級群)は前年を上回り、全体の来遊量は前年並みと考えられる。

近年、沖合域・沿岸域ともに、漁況の指標は低い値で推移している。来遊量が前年並みであることを反映して、

沖合域の漁況は前年並みで、沿岸域の漁況は0歳魚が漁獲の主体となり、前年・平年を下回ると考えられる。

(3)ゴマサバ

例年、11～3月期には0歳魚(豆銘柄)と1歳魚(小銘柄)が漁獲の主体となる。2004年級群の豊度は高い。2005年級群の評価は難しいが、漁況の経過から、2004年級群と同程度の高い豊度とみられる。これらから、0歳魚(2005年級群)は前年と同程度で、1歳魚(2004年級群)は前年を上回り、全体の来遊量は前年を上回ると見積もられる。

来遊量が前年を上回ることを反映して、沖合域の漁況は前年を上回り、沿岸域の漁況は前年・平年を上回ると判断される。

(4)マイワシ

2001年に東シナ海、日本海における産卵調査の結果が過去最低となって以降、沿岸域でのマイワシの漁獲量は極端に少なくなった。2002年に沿岸域での漁獲量は底打ちとなり、2003～2004年は前年を上回る漁獲量で推移しているものの、2000年以前に比べて漁獲量は少ない。したがって、マイワシの来遊量は前年を上回る海域もあると考えられるが、全体として依然として低位のままで推移すると判断される。

(5)ウルメイワシ

2001～2002年には当歳魚の加入がやや良く、来遊水準は一時上向いたものの、その後はやや漸減傾向にある。2005年の夏季に行った計量魚群探知機調査でも前年を上回ったものの、沿岸域の4～8月の漁況は前年を下回っているため、この時期に漁獲される2005年級群の発生量は少ないと考えられる。2003年級群、2004年級群の来遊も期待できないため、前年・平年を下回ると判断される。

(6)カタクチイワシ

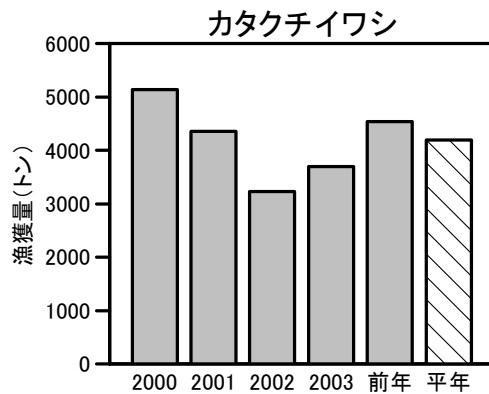
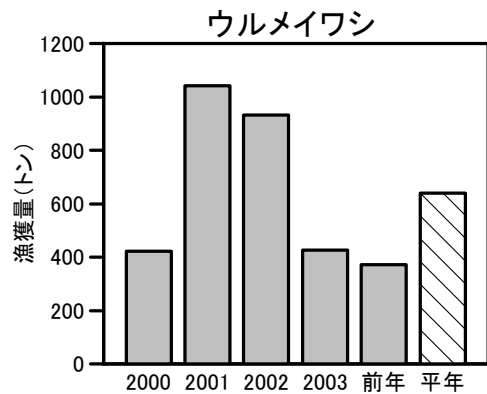
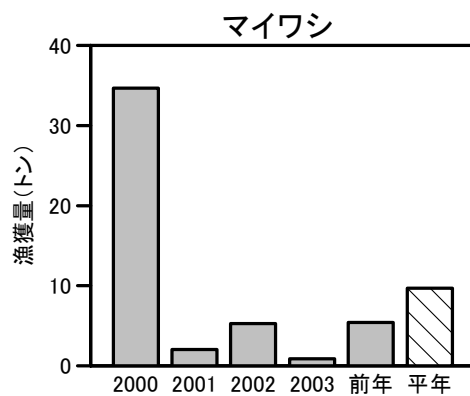
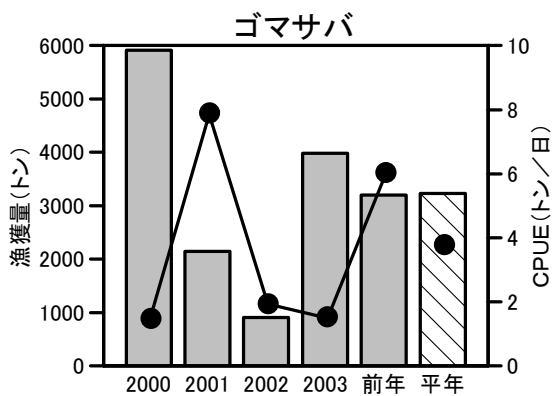
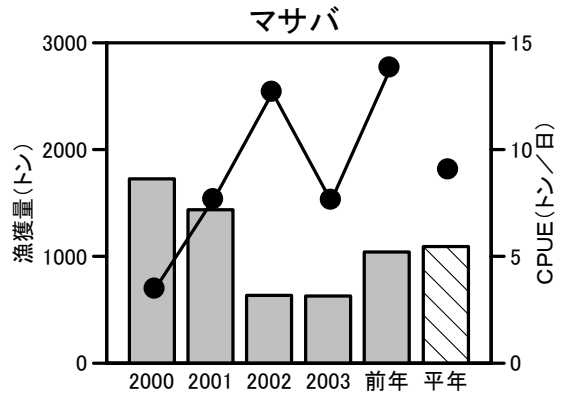
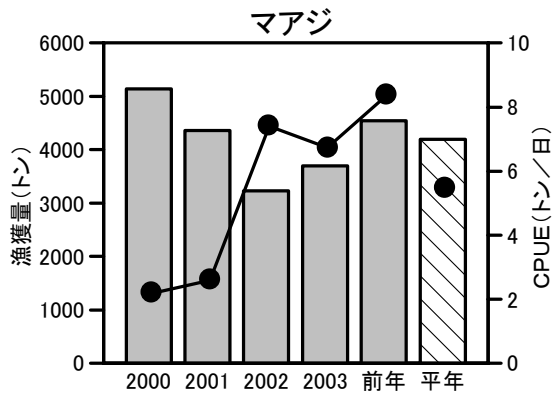
2005年1月～3月に大羽カタクチイワシの来遊が多く、そのため2005年春季発生群の加入は良かった。今後は2005年秋季発生群と、冬季に来遊する大羽カタクチイワシ(2004年秋季発生群・2005年春季発生群)の来遊次第である。秋季発生群は、現状では前年を上回るほどではないと判断される。大羽カタクチイワシは2005年春季発生群がやや良い加入と判断されるので、全体として前年・平年並みと判断される。

表1. 沿岸域の漁況経過(2005年4~8月、一部9月を含む)

	マアジ	マサバ	ゴマサバ
山口	<p>中型まき網(8ヵ統)で1,937トンの水揚げがあった。これは前年比 110%、平年比 113%で前年・平年並みであった。江崎地区の小型まき網で当歳魚(豆アジ)を中心に15トン漁獲され、前年比69%、平年比115%であった。一方、湊地区の棒受・すくい網では、ゼンゴが6、8月に合計2トン水揚げされたが、こちらは前年比 13%、平年比 3%と低調に終わった。</p>	<p>中型まき網(8ヵ統)で 166トンの水揚げがあった。これは前年比 140%、平年比 104%で前年を上回り・平年並みであった。江崎地区の小型まき網・すくい網では7月に0.07トンの水揚げがあった。一方、湊地区の棒受・すくい網では 7、8月に 6トン(前年比 14950%、平年比 19%)の水揚げがあった。</p>	
福岡	<p>代表港まき網漁獲量は 645トンで前年比 38%、平年比 72%と不漁。銘柄は中・小が主体。棒受網は50トンで前年比 64%、平年比 33%と不漁。銘柄は小・ゼンゴ・マメが主体であった。</p>	<p>代表港まき網漁獲量は 39トンで前年比 15%、平年比 28%と不漁。中心となるギリ銘柄が特に不漁。棒受網は 0.2トンで前年比 23%、平年比 32%と不漁。まき網同様ギリ銘柄が平年比の 8%しかなかった。</p>	<p>代表港まき網の漁獲量は 5トンで平年の 81%とやや不漁であった。</p>
佐賀	<p>前年・平年を下回った。(前年比 72.7%、平年比 64.7%)</p>	<p>前年を下回り、平年を大きく下回った。(前年比 80.1%、平年比 9.7%)</p>	
長崎	<p>前年・平年を下回った。(前年比 69%、平年比 70%)</p>	<p>地域により差があるが、概ね前年・平年並みであった。(前年比 88%、平年比 112%)</p>	
熊本 牛深港	<p>24.0 トンの水揚げがあり、前年比 10.4%、平年比 6.8%で、前年・平年を大幅に下回った。</p>	<p>629.2 トンの水揚げがあり、前年比 168.8%、平年比 535.0%で、前年・平年を大幅に上回った。</p>	
鹿児島	<p>4~9月 は豆・小アジ(2004年級群)主体に、7月以降はアジ仔(2005年級群)も漁獲された。4~9月の期間中、1,471トンの水揚げで、前年比 80%、平年比 62%であった。</p>		<p>4~9月 は豆・小(2004年級群)及び豆(2005年級群)主体に前年・平年を大きく上回り好調に推移した。4~9月の期間中、14,449トンの水揚げで、前年比 441%、平年比 391%であった。</p>

	マイワシ	ウルメイワシ	カタクチイワシ
山口	<p>中型まき網(8カ統)で1.2トンの水揚げがあった。これは前年比3%、平年比15%で前年・平年ともに大幅に下回った。江崎地区の小型まき網・すくい網では水揚げはなかった。湊地区では8月に棒受網でヒラゴ中心に10トン水揚げされたが、他の銘柄は水揚げされなかった。水揚量は前年比348%、平年比68%で前年を上回り、平年を下回った。</p>	<p>江崎地区の小型まき網では7月に0.8トンのみで前年比14%、平年比6%と前年・平年を大幅に下回った。湊地区の棒受網では8月に204トン(大羽56%:中小羽44%)水揚げされた。水揚量は前年比72%、平年比78%で前年・平年を下回った。</p>	<p>江崎地区ですくい網中心に6・7月に中小羽51トン(前年比18%、平年比25%)が水揚げされた。湊地区の棒受網では5月以降、1,448トン(中小羽62%:カエリ38%)水揚げされた。水揚量は前年比121%、平年比114%で前年をやや上回り平年並みであった。今年もここでは6月下旬からカエリの豊漁傾向が続いたが、昨年同様腹部が赤くなりイリコ加工用に不適との判断から水揚げ中止や漁獲量制限(全船で1,500箱/日程度を割当)を行った。8月には中小羽主体となった。</p>
福岡	<p>代表港まき網において5月にわずかに漁獲されただけであった。</p>	<p>代表港まき網の漁獲量は131トンで前年比45%、平年比162%と好漁であった。しかし棒受網での漁獲は少なく5トンで、平年比29%であった。</p>	<p>代表港まき網では漁獲はなく、一方、棒受網の漁獲量は16トンで、前年比82%、平年比23%と不漁であった。</p>
佐賀	<p>前年・平年を下回った。(前年比53.3%、平年比35.3%)</p>	<p>前年・平年を下回った。(前年比62.5%、平年比84.2%)</p>	<p>前年・平年を大きく上回った。(前年比251.2%、平年比195.3%)</p>
長崎	<p>前年同様、漁獲は低調に推移した。</p>	<p>前年・平年を下回った。(前年比18%、平年比22%)</p>	<p>地域により差があるが、概ね前年・平年並みであった。(前年比116%、平年比106%)</p>
熊本 牛深港	<p>8.6トンの水揚げがあり前年比114.6%、平年比97.7%で、前年・平年並みであった。</p>	<p>74.3トンの水揚げがあり、前年比9.8%、平年比14.7%で、前年・平年を大幅に下回った。</p>	<p>1,728.9トンの水揚げがあり、前年比258.0%、平年比123.3%で、前年・平年を上回った。</p>
鹿児島	<p>まとまった漁獲はなかった。3.5トンの水揚げで、前年比1305%、平年比9%であった。</p>	<p>小中羽ウルメ(2005年級群)主体にまき網・棒受網ともに低調に推移した。まき網では128トンの水揚げで、前年比38%、平年比15%、棒受網では370トンの水揚げで、前年比49%、平年比50%であった。</p>	<p>4月までは大羽群主体で好調に推移したものの、5月以降は低調に推移した。期全体でまき網では317トンの水揚げで、前年比125%、平年比73%、棒受網では239.4トンの水揚げで、前年比56%、平年比51%であった。</p>

注:「前年」は2004年4~8月、「平年」は過去5年の平均値。



今後の見通し参考図

沿岸漁業の漁獲量(沿岸漁況の指標の一つ;棒グラフ)と大中型まき網の1日当たりの漁獲量(沖合漁況の指標の一つ;折れ線グラフ、CPUE)。沿岸漁業の漁獲量は、マサバは福岡県～熊本県(ゴマサバを含むが主にマサバ)、ゴマサバは鹿児島県(マサバを含むが主にゴマサバ)、その他は福岡県～鹿児島県の主要沿岸漁業漁獲量。11月～翌年3月。平年は過去5年平均。